

Copyright 日本建築学会

奈良



佛方町
二十三宮地本各内
大内



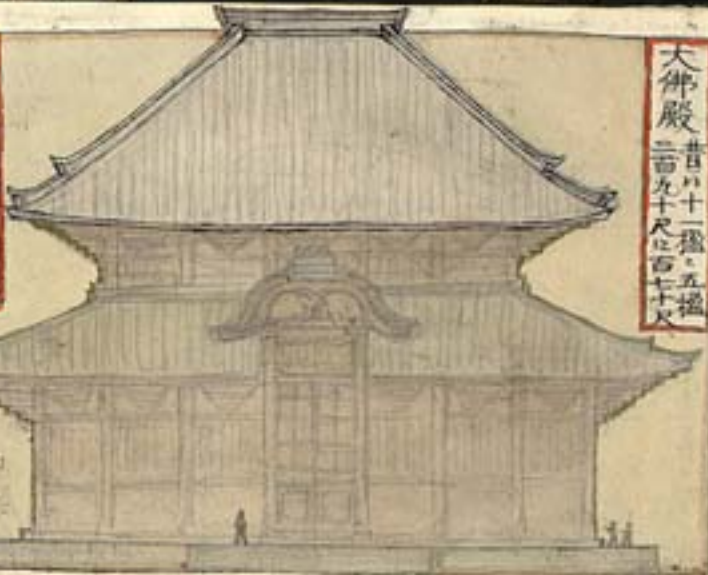
五尺

奈良の大佛の
巨柱の穴

離恨幾長里
大坂南新地
雨急嘈々聲
夜深私語時

25尺
20尺
15尺
10尺
5尺

大佛殿
今は七檼五楹
百八十八尺に百六十八尺



大佛殿
昔は十一檼五楹
二百九十尺に百七十尺

唐門



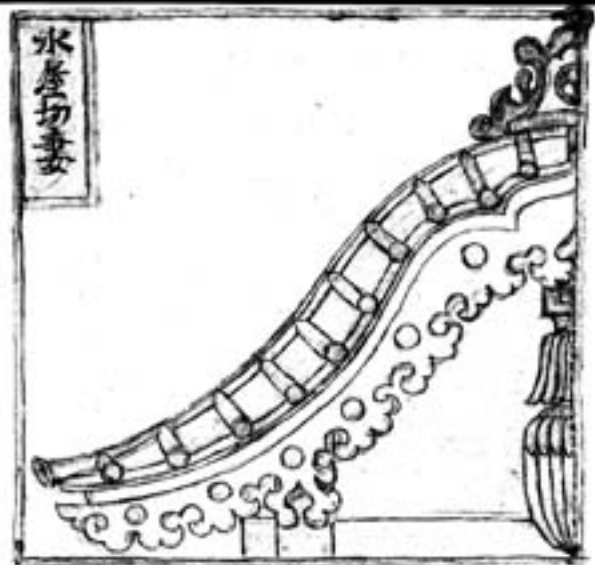
台徳院
慧門



肘木変りす
菊花彫刻とある

持成向拵

「すか」にもの台徳院も惣門とある
ある。唐門を○○で○○を繋ぎ
あの彫刻とあるは、よき台徳院
するあるべし。





相武紀行

陽氣發スル所金石亦多造ル陽の発スル所宜と〇〇ヲ透サシヤ、憶フト由來多情多恨ノ士、シカモ此條ノ春陽、逢フ、其豪遊ヲ試ムル洵、以テアス矣。

曰ク河合處世博士、曰ク山下進取博士、曰ク伊東閑達博士、昂然紅塵万丈ノ東都ヲ発シテ江ノ島ニ向フ、日坤ニ至テ着ス、焉余等先ツ島上第一(海運)夷樓ニ投シ以テ島ノ勝ヲ探ル、曰ク組石、曰ク奥ノ洲、曰ク辨財大窟、曰ク何、曰ク何一々記スガラズ、途上美香鼻ノ葉ニハ蝶蝶ノ壺焼ナリ、怪声耳ヲ劈クハ、賣店ノ喫呼ナリ、組岩上怪蟲森々シ羅テリ、児カ淵辺渾丈呐喊ス、月



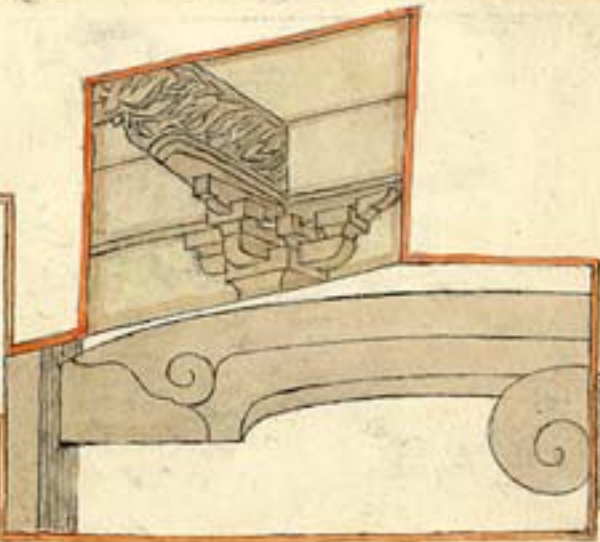
二月廿四日



三月廿六日

三圍牛宮神社

三圍牛宮神社



三月廿六日

相武田守

向好ノ側面お取レノトリ付ケ
ね陶とおノ石ノトリ付ケ
ねの石とね陶との取り付ケ



鹿
へけんや

内部?
内部ノ裝飾?

須弥壇ノ上ノハニ重兩打ノ形をナセリノ
殿ヲナシ全々建築的ノ性度ヲ具ヘタリ

剛刻ハ甚タヨク多用ナラレタリ杯本ノ主トシテ
獅龍ノ象水草を雲禽欲コシテ肘木ナトモ
展ノ彫刻ト変シタリ屋樑ノ鼻ト柱トモ変シタ
ルヤ滋用ニ云スヘシマコルヤ等ノ彫刻ハ
全ク浮明トシテ松木ハ島ヲ多シトス、全ク浮
明ナキ Kam Kokusaka.



司
美人
やまよ憚りながら

模様の自然形ノ模様ニ鳳凰尤も多シ
又蝶ノコトハシヨナル配アリ其他獅子ノ模様
アリナリエトシ及花ノ模様も多クアリ

○人工的バダイズ目及ビ自然形ヨリ取ラレ
調々シヨク散テ其主要ナルモノハ幾何學
的ニハ(1)(2)(3)(4)ノ如シ其他又ク

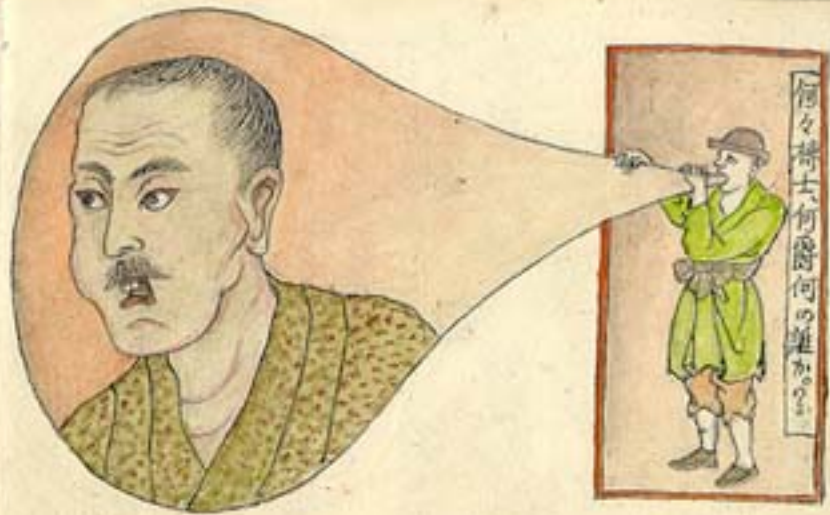
○色彩ハ甚タズクイトナリ内ハ金銀トミチ
チン目トミチテ内部ノ柱ハ金タ金マア又ニチ
其外ノ方ハ赤モモ多ク、殆ント凡テノ部
赤シ次ニ黄モ多ク、緑モ少ク、青モ少ク、
黄ハ金モ似テ代用セラレ、白モ少ク、
○○

間色ハ極メテ少ク、カラウシクアルノミ、
コノ厚色ノミノ裝飾ハウズル時モ室内ハ却テ
適當セリ而シテ其配合ノ絶美ナルヲ爲シ一様
ハ「マニ」ありて極メテ立派アリ
線ハ多ク、蓋シ像々々々場所々々ナリ
ハ殿天井ハ掃地等ノ説あり、其其他ハ
dado 蓮花あるのみ

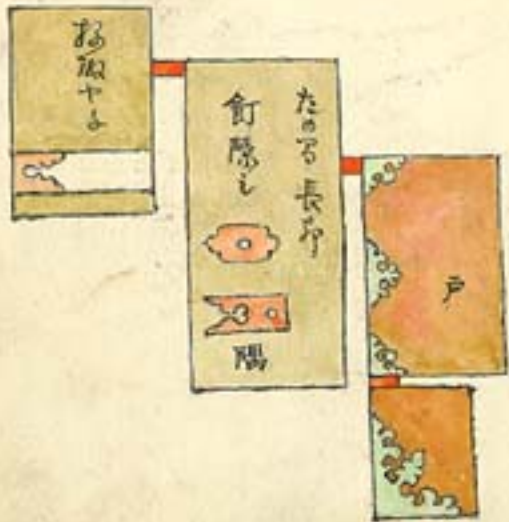
●構造

甚タコトゴノストラヂナートルテあり
此点ヨリ見シハコノ建築ハ徳川時代ノ才ニ居
才ニタルキテ見セタル所ノ九天井
ルーフトラス

狗印 柵干のサカハス、ベースの低キ











本殿セテシヨシ



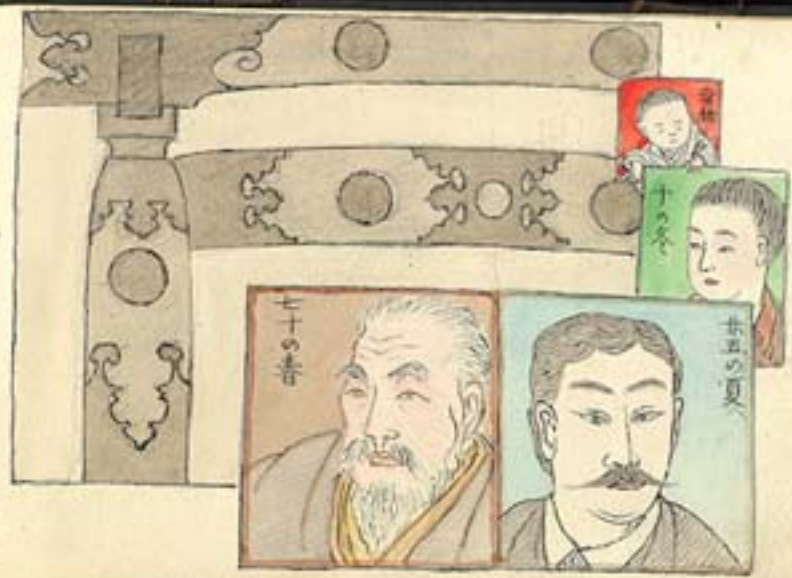
On the upper part of all columns are ornaments by Kinsamonshi as usual which suggests a heap of clouds



七十歳の秋



十八歳の春



七十歳の春



廿五の夏

招福の宮祀キンランマキ



秋四郎君之像



源氏物語の人物



東大寺上層屋根



奈良の少女





法華寺
 柱ノ上ニ基輪ナシ
 隅木ノ下ニ斗物ナシ
 礎磐木ヲミテ柱面ト陸アリ
 擬室珠ト白ク慶長六年
 片桐東市正且元奉切
 正ルセヨ妻四百向様ツキ方形屋振
 軒出祖之
 大斗大サ柱に全シ但換ニツ小百三ツ



南柳東大寺
 高さ二十四尺



茶師寺須弥壇



笑泣怒

題

怒之痛也

泣之仁王

笑之觀音







題
黑白赤黄



笑仁王

法観音





明治御之像



明治御之像

一片丹心竭斯勞
 功期遠有名利外
 準繩長強仙殿堂
 規矩正加仙尊體
 千年應發積為山
 西嶽丹書瘞髮綠
 賜鶴林慈破棘止
 慈雲勿散火塔起
 今日慈花眼塔結
 却收東洋身事華

某仁筆



法隆寺あり
今剛山を眺む



義犬の図

丁上八上ガアノガナノ





大徳殿足代之圖







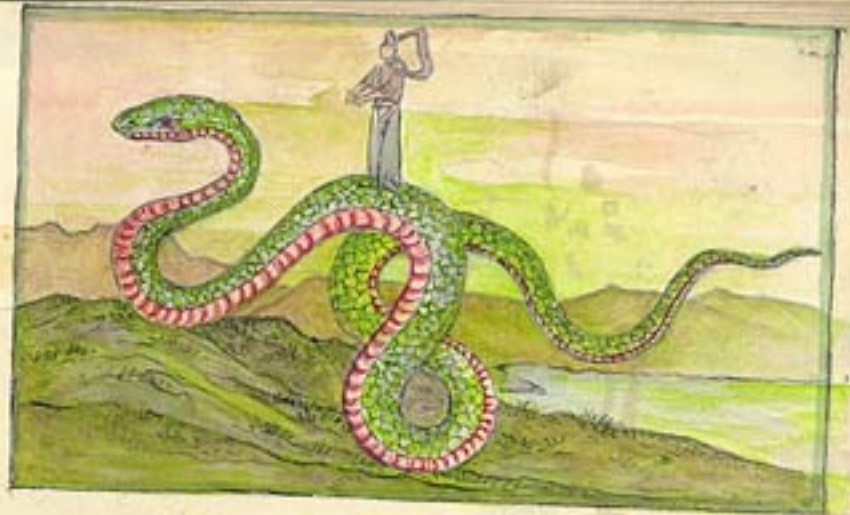


伊東先生之像

明治四十八年



明治四十八年未來之像



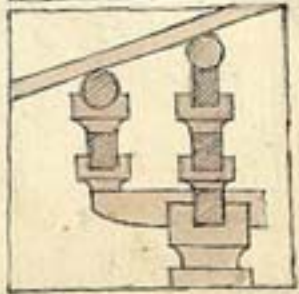
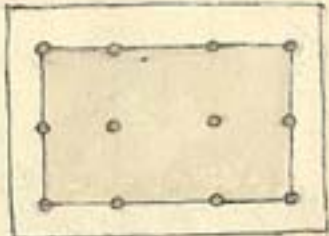
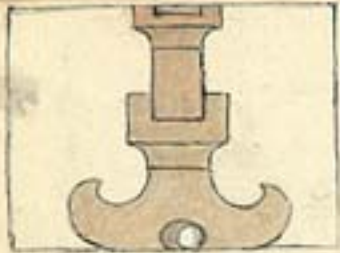


勝敗有數
曆々不可辨



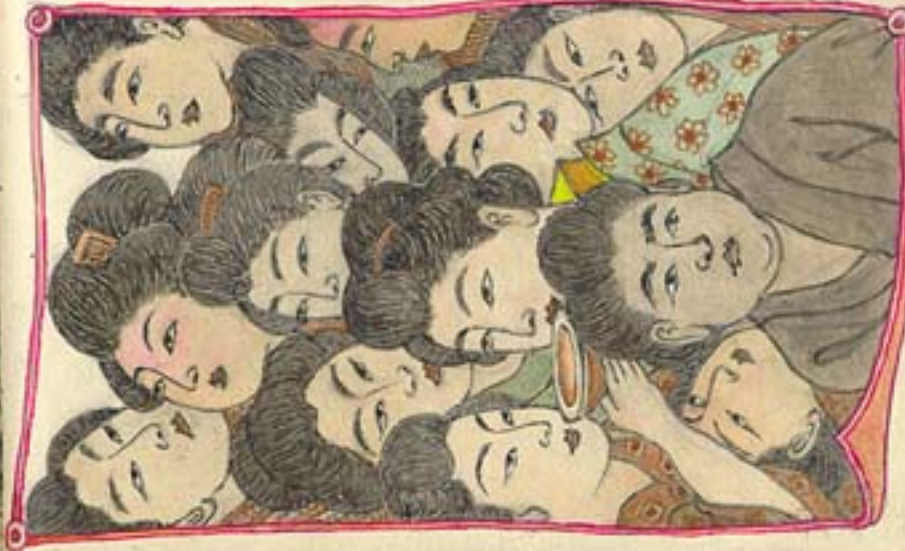
題
四通八達

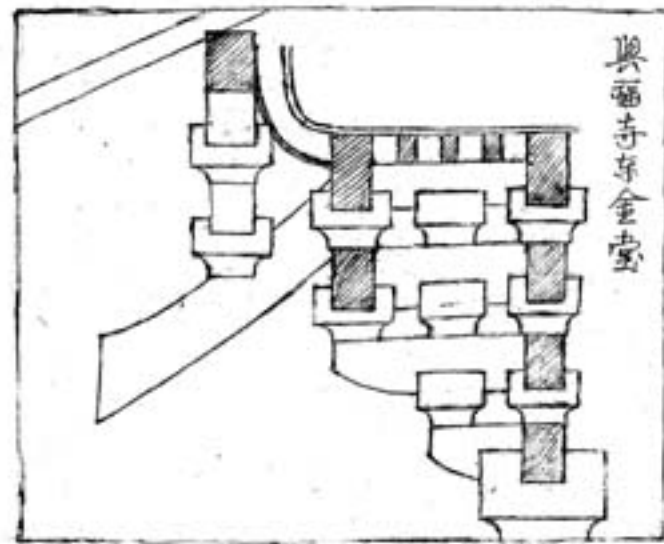
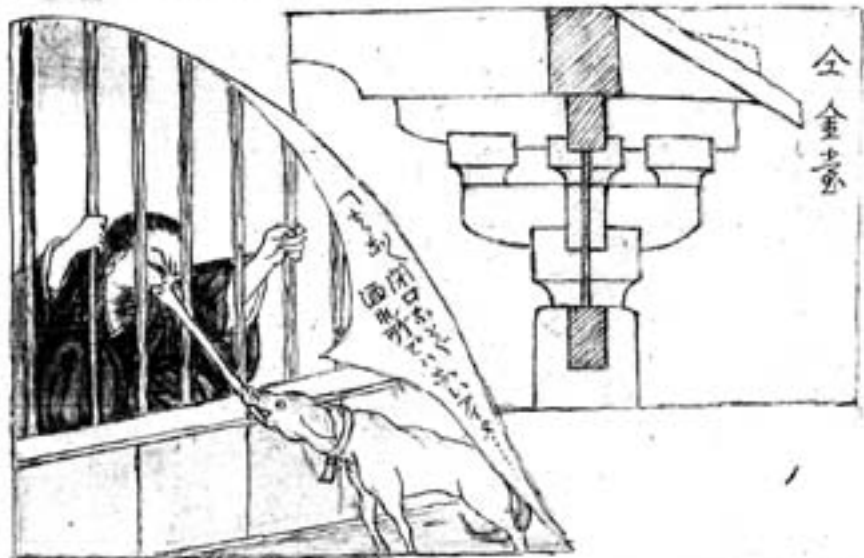




輾轉門

下丸丸キニ重ナリ
三搦造り軒の出八支





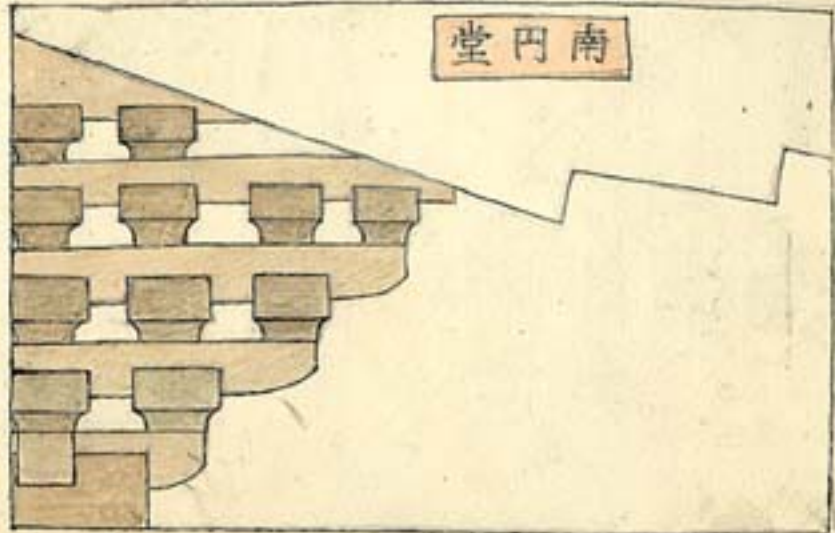
鬼の標本田の
由るくも美人の
尻こしがるし体



サリ
幾人とも
出で

五重塔斗物東金堂と全し一丈八寸五分

堂円南



懐きか。身。より
静かに。心。へ
静かに。心。へ
静かに。心。へ
静かに。心。へ



全後面図



たこ女し像

うた女



浮気堂の梅も止めて
いらぬ櫻は扇鳴き

きみ女



伊東の伊の字のその半分も
口はのせねとお君さん

あがらしもまね吹かすまも

君見まじ

まゆみしめ柱はふとのを

わたり

魁三



杉と云ふ字は
と氣(木)が残るふら
公(きこ)は漆のまて
お松どん

おり女



松と云ふ字はと今新まれを
公と云ふ
まじ向い



五重岡

ワキ五尺七寸

中六尺八寸八分

一色

ワキ七尺四寸

中 八尺八寸三分

屋根引きトリミナル

南ツ西間共ハ二層下屋根ナレ

九輪水煙以上長き造キナリ、

九輪水煙以上…変盤極ノテ大アリ、

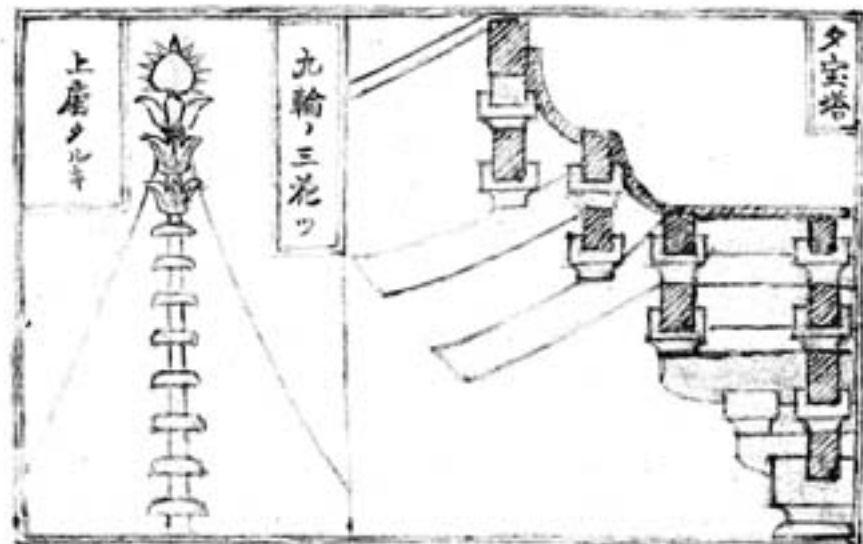
九輪アロバハ合長の半に至ラズ、

輪ノ引き通シ以外に出るハ直シからス、

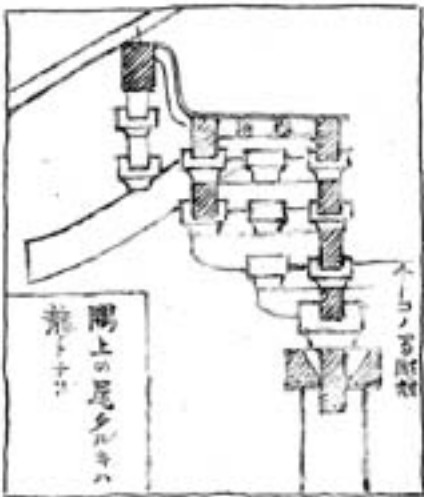
各階ノ高き代リ、屋根も亦た非常に

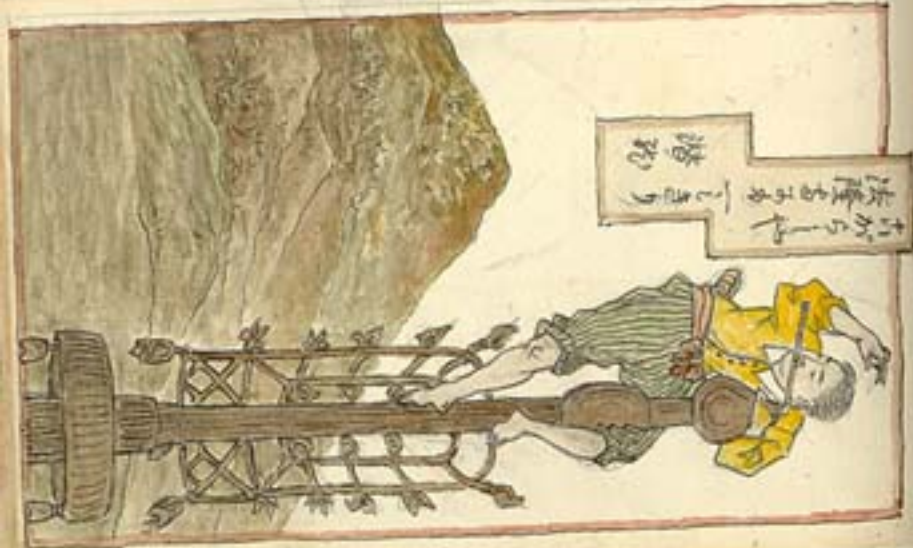
急ありカノアロバトシヨシ甚タヨシ。



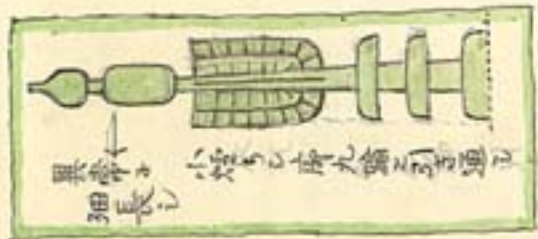


●妙国寺三重塔。一支■支三寸四分下
 二寸アキ二寸四分
 初 中ノ十二支 腹ノ骨十支 出十七支
 五尺二寸八分 四尺四寸 七尺四尺分
 二 十支 九^上支 十五支
 色 四尺四寸 三尺九寸六分 六尺六寸
 三 扇タルキ
 初色中ノ石同真々 腹ノ寸柱心に
 五尺三寸 四尺四寸
 三冬目二扇タルキ也





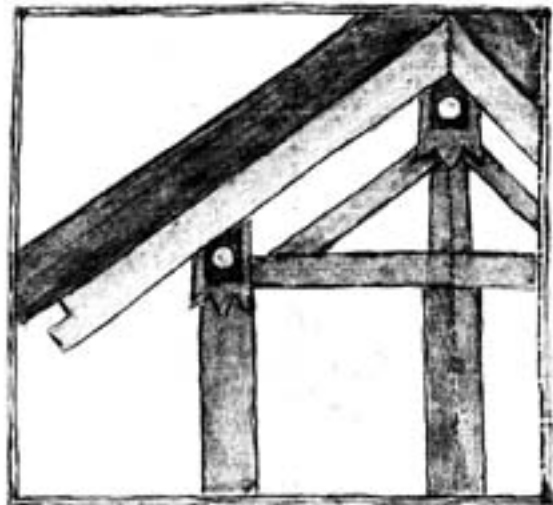
dwelling house	半木限り
temple 下	一本
上	一本 一本 一本
多包塔塔カキ	二本 一本



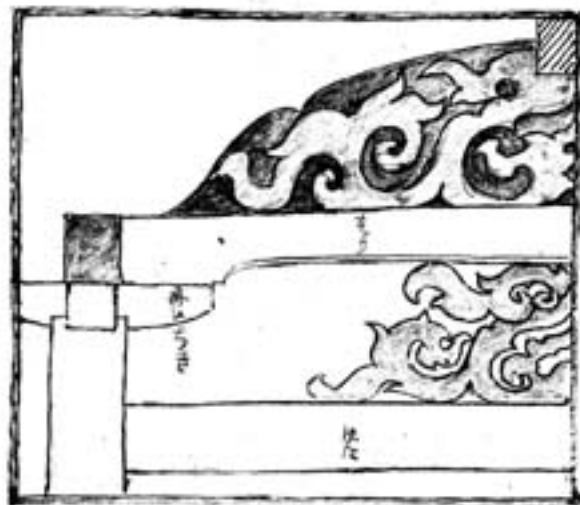
層極反りの異帯と大なるハ
 規則通りあり
 勾配の寧ろ小あり、全体の
 形大まよし

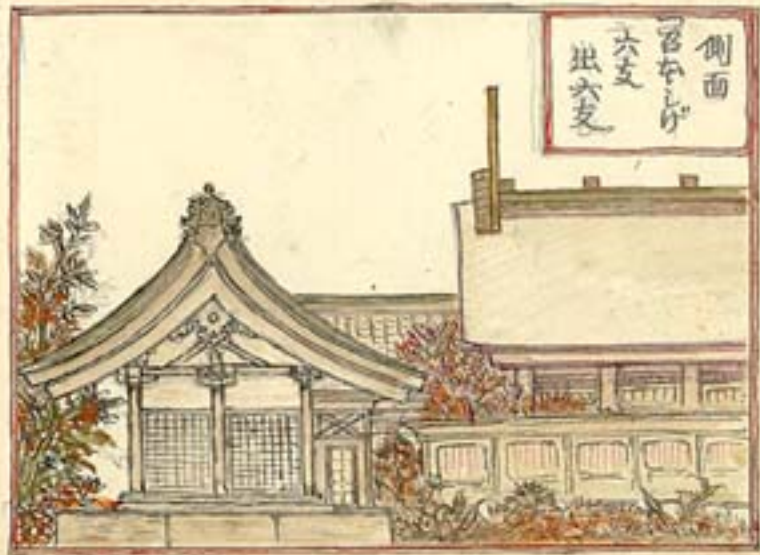
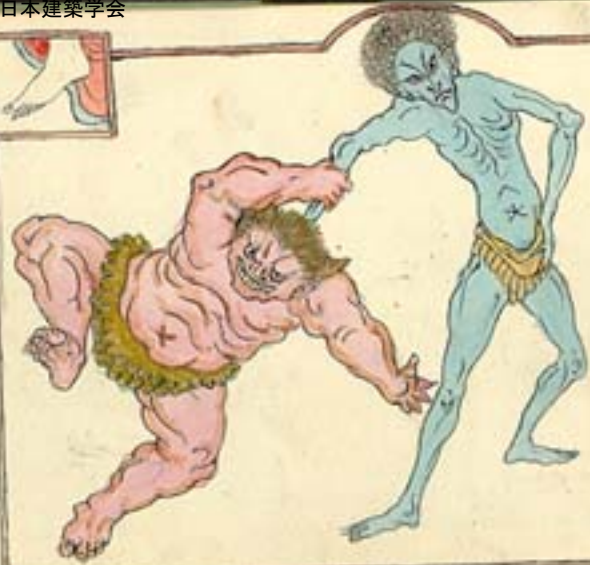
狐格子



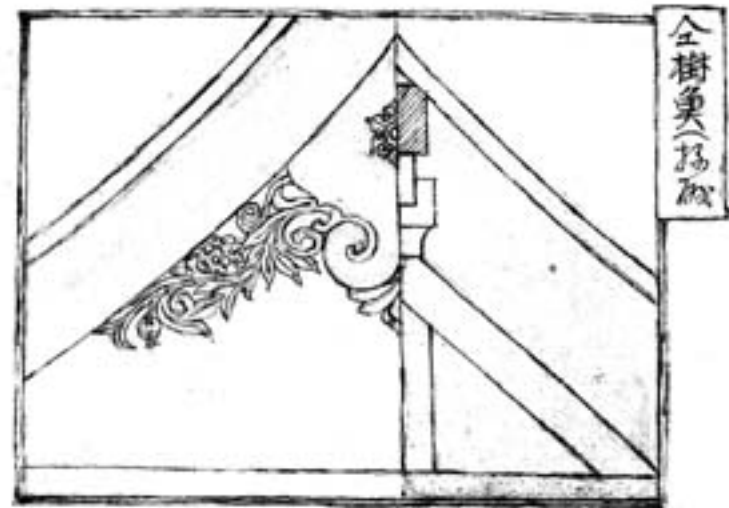
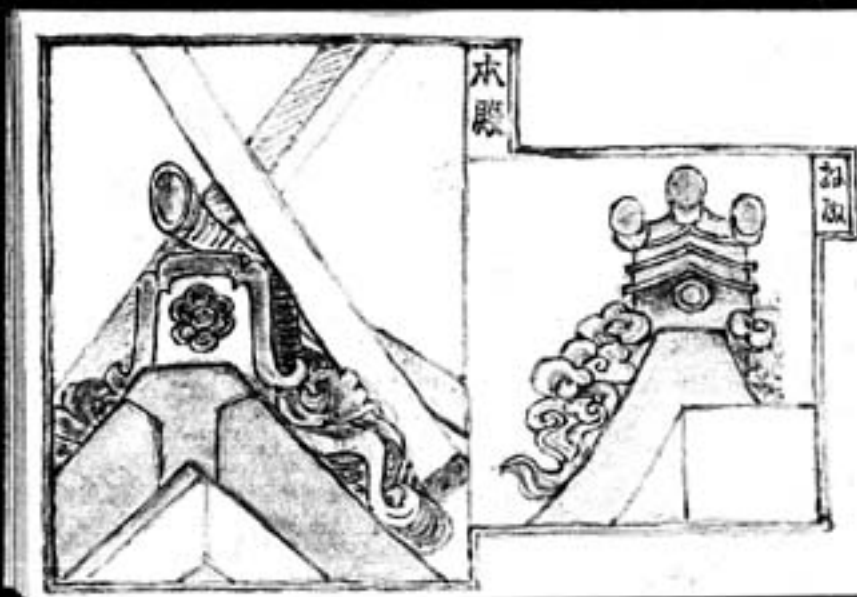


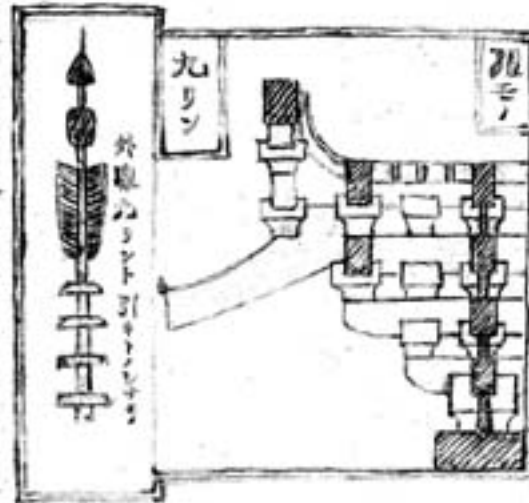
勝男木四角ナリ





側面
百廿七
六支
出六支





清水三重塔 柱太二尺二寸
屋檼引きト
下申十丈ワキ八丈出寸一丈
中九丈七丈十二丈
上八丈六丈十二丈

下中心一丈六寸
ワキ心一丈二寸六分

賀式

加共三石ニ石向拝ノき平入り
流き作りなり。

別々特呀アル乎？

栂門ノオニ種頭次ト云ノヤキ妙ナリ

クキ十一支
中 二十反
出 二十反

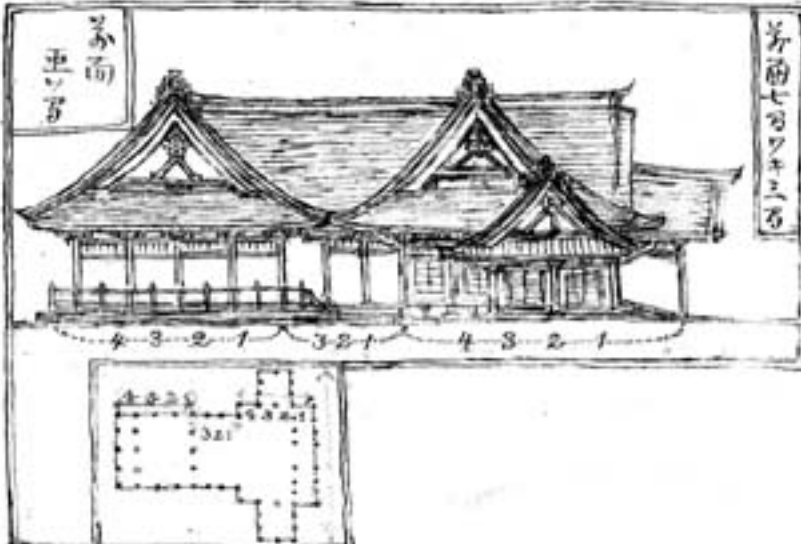
地 十反
三反 五反 六寸六分

軒廻りニ物典松寺ニ全シ



美耐七石ノキニ石

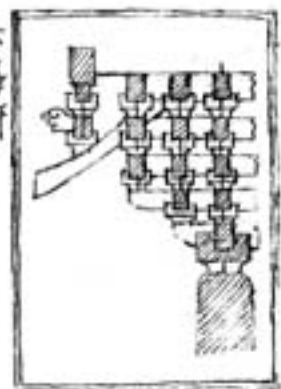
ふ面
玉ツテ



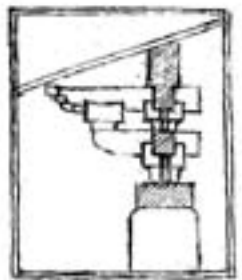
4 3 2 1 3 2 1 4 3 2 1

相国寺禪

二重西打屋根棟巻瓦下子共
破風三草柳奥上宮三層多止キ
軒廻り三手先キ二軒

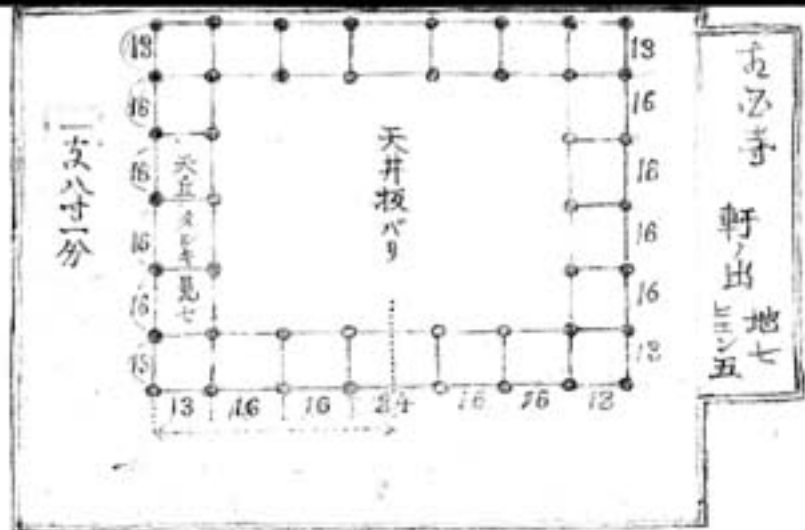


下層軒



平の神社
出七友中

二棟



奈良